

第 30 回長崎県央看護学校看図アプローチ研究会開催 @諫早

8 月 21 日、諫早市にて第 30 回長崎県央看護学校看図アプローチ研究会が開催されました。同校の教員はじめ、長崎・福岡・愛知・北海道から申し込みがあり総勢 21 名での充実した会となりました。

今回の報告は、講師を勤めた 3 名で分担執筆し記事を作成しました。それぞれの視点から、今回の研究会をふりかえっていきます。



長崎県央看護学校

研究会プログラム

0. アイスブレイク

(長崎県央看護学校 田中伸子先生・山口奈津子先生)

1. コンテンツ基盤型教育とコンピテンシー基盤型教育の融合

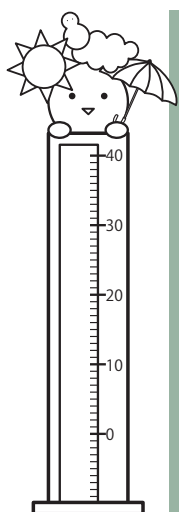
(北海道教育大学名誉教授 鹿内信善先生・日本医療大学 石田ゆき)

2. VR 看図アプローチで実習前レディネスを高める協同的な読み解きを通して、 実習への見通しと自信を育む

(藤田医科大学 織田千賀子先生)

3. まなびのまとめーきゅうちゃんきせかえ

(長崎県央看護学校 田中伸子先生・山口奈津子先生)



アイスブレイク

研修冒頭では、参加者の心の状態を共有するために、天気をきゅうちゃん、やる気を温度計で表現するアイスブレイクを実施いたしました。きゅうちゃんは、言語化しにくい感情や気分を柔らかく安全に表現できる点でその力を発揮し、参加者の皆さまは自身の「今の心の天気」を自然に描き出しておられました。また、温度計によるやる気の可視化は、研修への期待や緊張を数値として示すことで自己理解を促し、場の雰囲気が一気に和らいだように感じました。短時間の取り組みでありながら、参加者同士が互いの状態を理解し合い、学びに向かう準備が整う有意義な時間となりました。

(文責：田中伸子)



きゅうちゃんアイスブレイクの様子

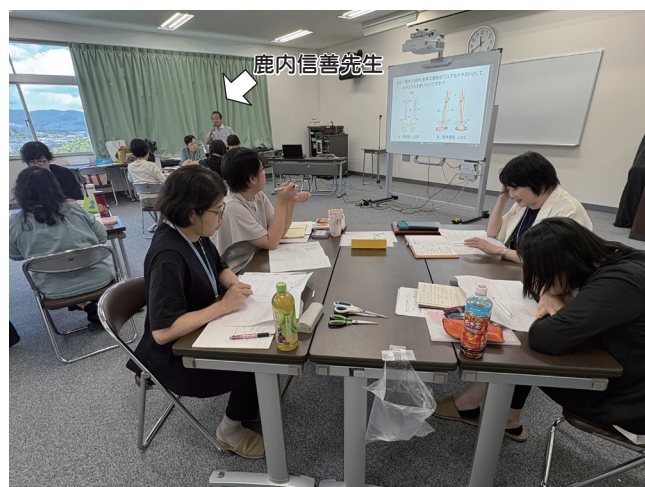
コンテンツ基盤型教育と コンピテンシー基盤型教育の融合

難しい知識であっても、看図アプローチを導入することによってやわらかく深く学んでいけるということが、ワークを通して体験的に学べるプログラムでした。

鹿内信善先生のプログラムでは、はじめに、長年にわたり課題とされてきた「コンテンツ基盤型教育」と「コンピテンシー基盤型教育」の融合についての講義がなされました。コンテンツは知識、コンピテンシーは例えばその知識を応用し行動につなげるといった汎用的な能力をさします。一般的には思考力・判断力・表現力、看護教育領域では「臨床判断力」がそれにあたります。しかしこれらを両立した教育はなかなか困難であり、その解決策としてプロジェクト型学習 (PBL) が推奨されてきました。

PBL は藤本 (2024) によって4つに類型化されています (問題解決指向・協働指向^注・問題創出指向・個別指向)。そのうち問題解決指向・協働指向が看図アプローチの得意領域です。看図アプローチの場合、これらの言葉を少し捉え直し、「問題提案型」と「問題誘発型」の2つの型に分けて考えると便利です。また、「理解する」ということはどういうことなのかについて、ブルームによる分類学をもとにした解説もなされました。

ここで私 (石田) がバトンタッチし、きゅうちゃんを活用したワークを行いました。AとB、2種類のきゅうちゃん (スコップで穴を掘っているようなきゅうちゃんとレンガを積んでいるようなきゅうちゃん) を呈示し「どちらのきゅうちゃんが看図アプローチのイメージに近い？」という問いを投げかけました。



ワークショップ中の様子

参加者たちはAかBのきゅうちゃんを選択します。しかし、ただ「Aです」「Bです」と答えるだけではありません。同時にその理由を考えることになります。「どちらのきゅうちゃんが看図アプローチのイメージに近い？」と「問題提案」しながら、ごく自然に「～だからA(またはB)」と参加者自ら「問題誘発」するワークになっているのです。きゅうちゃん読み解きのワーク自体を楽しみながら、PBLの型についても理解を深める時間になりました。参加者の方からは「あのきゅうちゃんのワークのおかげでPBLの型の難解な内容が理解できた」という感想も聞かれました。

そこからはまた鹿内先生にバトンタッチし、「ふろしき」や「回内・回外」のビジュアルテキストを使った協同学習によるワークが行われました。人の手の骨や関節等の構造の不思議にふれながら、学習者に「え!？」と思わせるような授業の仕掛けについて学びました。「え!？」についての理論的な理解のために水流実験も行いました。この実演は石田が行いました。

まだまだスライドの用意はありましたが、この解説をしたあと間もなくタイムアップとなりました。続きの内容もコンテンツとコンピテンシーを両立した興味深い内容でした。スライドショーを解除した画面を見て、参加者の方からは「まだまだいっぱいあったのですね。別の機会にまた続きを学びたいです。」という言葉いただきました。そのようにできることを私も願う、良き余韻の残る講演となりました。

(文責：石田ゆき)



ワークショップ中の様子
(手首は「回る」?)



●藤本和久 2024 『『プロジェクト』はカリキュラム改革の切り札となるか?』尾崎博美・井藤元(編)『ワークで学ぶ教育課程論—増補改訂版—』ナカニシヤ出版 pp.188-200

注：最近「協同」ではなく「協働」という言葉が遣われるようになってきました。しかし本報告記事では“みんなで同じ問題について一緒に考える”というニュアンスをもった「協同」のほうを意識して執筆しました。



VR 看図アプローチで実習前レディネスを高める協同的な読み解きを通して、実習への見通しと自信を育む

VR 看図アプローチを通して、学んだ知識を臨床場面でどのように働かせるかを、先生方とともに体験しながら考えました。

冒頭では、「∞」から思い浮かべたキーワードを持ち寄り、グループで一文につなげました。あるグループでは、「可能性、人と人をつなぐ、ひらめき、清拭の前胸部を拭くようにやさしく丁寧にね。」という一文が生まれました。それぞれがもつ知識や経験をもとに意味を見だし、他者の見方とつなぐことで、新たな意味が生まれる過程を体験しました。

VR 看図アプローチの体験では、VR や iPad を用いて臨床場面を視聴していただきました。VR ゴーグルを交代で使用する中で、体験した先生が次に体験する先生に操作方法を教えたり、見えたことを互いに語り合ったりするなど、協同的な学びが自然に生まれていました。

グループワークでは、VR 看図アプローチを実習前に活用することで、術後の環境をあらかじめイメージできることや、患者への接し方や声かけ、指導者への報告を具体的に想定できること、不安や緊張の軽減につながるなどが挙げられました。今後は教材を共有し、それぞれの実践や意見を持ち寄りながら、よりよい教材・教育プログラムへと発展させていきたいと考えています。

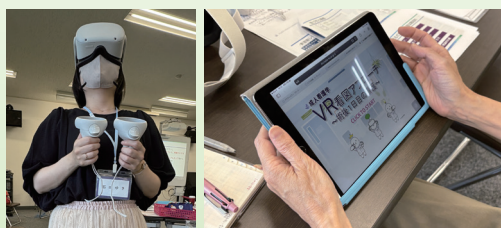
(文責：織田千賀子)



実習前レディネス向上のためのワークの様子



VR 体験の様子
(入念な事前準備のおかげでとてもスムーズでした！)



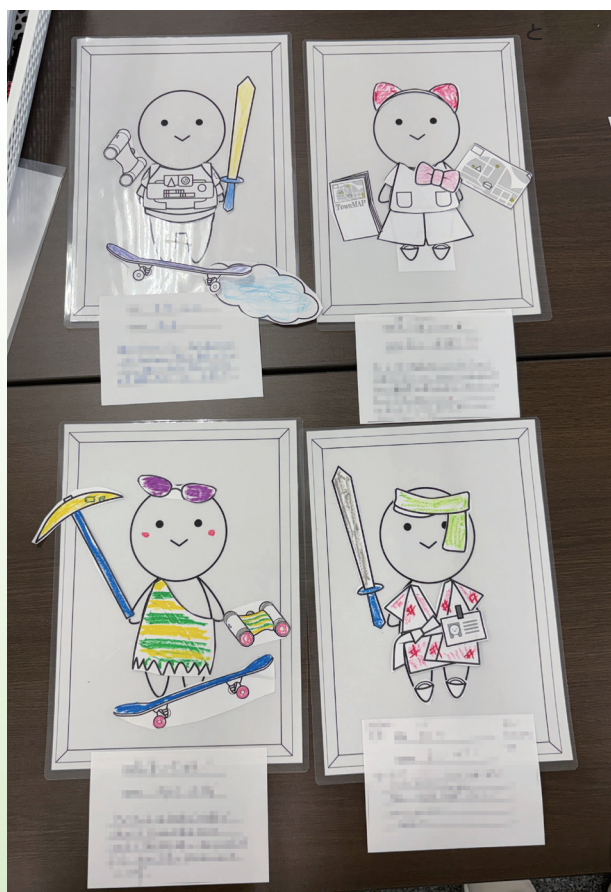
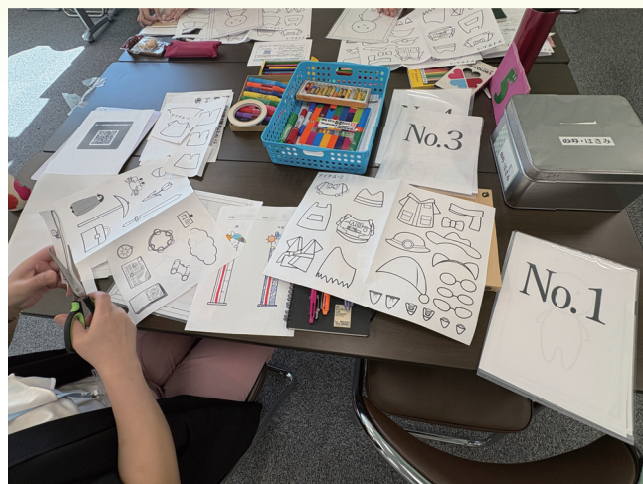
石田も VR 体験
させていただきました！
(目の前に医療機器が...！)

iPad による VR 体験も

まなびのまとめ

ーきゅうちゃんきせかえ

研修のまとめでは、きゅうちゃんのきせかえアイテムを用いて、学びや気づきの変化を視覚的に表現するワークを行いました。アイテムを選び、身につけさせる過程そのものが自己理解を深める機会となり、参加者の皆さまは「どの力が育ったか」「どの視点が増えたか」を丁寧に整理しておられました。完成したきゅうちゃんを並べたギャラリーでは、参加者の創意工夫があふれ、一つとして同じきゅうちゃんはなく、多様な学びの形が表現されていました。視覚化によって研修の成果が共有され、学びの広がりを実感できる、看図アプローチらしい温かい締めくくりとなったように感じました。完成したきゅうちゃんをスマホの待ち受け画面用に撮影しておられた参加者もおられたとか…。 (文責：田中伸子)



きゅうちゃんギャラリー
(ベースのきゅうちゃんはラミネート加工され再利用可能な仕様！)



きゅうちゃんきせかえ制作の様子

本研究会にご参加くださったみなさま、
企画・準備にご尽力いただいたみなさまに
深く感謝申し上げます。

長崎県央看護学校の今後のさらなるご発展を祈念しております。

2026年8月31日
全国看図アプローチ研究会